

■トラック 4

すみません、遅くなってしまいました…。

少し、生徒会への報告に手間取ってしまいました。

……ん？ ああ、それは…

先日の、味見の結果についてですよ。

あなたは栄養射精係としては不適格…そう伝えておきました。
色々と根掘り葉掘り聞かれて面倒でしたか、とりあえずなんとかかりましたよ。

これで、書類上あなたは栄養射精係ではなくなり…

私だけのものになった…というわけです。

…どうです？ 嬉しいでしょう？

……うっ、それはまあ、そうですけど…。

私も、嬉しいですよ？ それはもう、とっても…。

…だって、これから毎日、美味しい精子を独り占めできるんですよ？
そんなの…気持ちが高まって当然じゃありませんか。

……んっ、ああ、あの味を思い出したら、
また欲しくなってしまいました。

晴れて私専用の射精係になったことですし…
早速、最高の精子を飲ませていただきますねえ…？

……ん？ ああ、それなら大丈夫ですよ。
この教室は、あまり人も来ないので…見つかる心配はありません。

とりあえず、勃起させてあげますから…

ほら、口を開けてください。

…ふふっ、今日も元気ですね。
おちんちん、思いっきり勃起して…ズボン、パンパンじゃないですか。
このままじゃ苦しいでしょうから、脱がせてあげますねえ…？

……ん、んんう…あ、んふふっ。
ああ、すご…。

思いつき反り返って…ああ、んっ。
もう、爆発しちゃうようになってますよお…？

いくら私の唾液に催淫効果があるとは言え…
おちんちん、こんなにギンギンにしちゃうだなんて…ふふっ。
よっぽど、エッチしたかったみたいですね？

……まあそれは、私もなんですけど。

あなたの精子を飲むためだったら…

くだらないプライドなんて、もう捨ててしまいましたし。
ん、ああ…。

ああ、んっ…。

……ふふっ、耳舐め、気持ちいいでしょう？

相変わらずあなたは、耳を刺激されるのが好きですよねぇ？
少し舐めてあげただけなのに…もう、あんっ、あんって可愛い声…
私の耳舐め、よっぽど気に入ってくれたみたいですね…？

んっ、あ、ああ…んー？
なんだか、おちんちん触って欲しそうにしていますね？
ほら、さっきからぴくぴくうって切なそうに震えて…

このまま放置というのも可哀想ですし…
手コキ、してあげますねぇ…？

シコシコ、シコシコ…シコシコ、シコシコお…。
ん、あ、ああ…。

はあ、はあ…あ、んんっ。
おちんちんピクピクして、可愛いですねえ…。
それに、金玉もきゅんきゅんって上がってきて…
気持ちよくなってるの、丸わかりですよ…？

ん、ああ…それにしても、こんなコロコロして可愛い金玉の中に、
最高の精子が詰まってるなんて…本当に、びっくりですよねぇ…ごくっ。

早く濃厚精子飲みたいっ…んっ、はあ、はあ…
ね…出したくなったら、いつでも出していいですからねぇ？

ああ、んうっ…シコシコ、シコシコお…。

んっ、あ、ああ…ふ、ふふふっ。
ビクビク、全然止まらなくなってきましたねえ…？
ほら、勃起おちんちん限界なんでしょう…？

……んっ、ふふっ…やっぱり、そうですねえ？

でしたらあ…このまま、私の手の中で…
あっつい精子、一回出しちゃいましょうねえ…？
はあ、はあ…んっ、ああ、んうっ…。

さあ、いきますよお…？ んっ、せーのおっ…♪

んっ…びゅっ、びゅっ、びゅうううううううっ…。
びゅくっ、びゅるっ、びゅううううううう♪

んっ、はあ、はあ…んっ、ああ。
相変わらず、凄い量…♪

手で受け止めても、どんどんこぼれてしまって…ああ、もったいない。

んっ、んれるっ、れるう…こくっ、こくっ…ごくんっ。
あ、ああっ…んくっ、ごくっ…んれるっ、れるうっ…んちゅう♪

んっ、はあ、はあ…あああああ……最っ高♪

やっぱり、あなたの精子…たまらなく美味しいです。
上質な魔力が詰まっていて、何回味わっても食べ足りないくらい…

んっ…ほら、見てください。

早速、私の淫紋も光って…欲情しちゃってますよ。

……ふふっ、当然でしょう？

サキュバスの食欲…いや、性欲、舐めないでくださいね？
精子を舐めたくらいで、終わるわけありませんよ。

ですから、ほら…今度は私のおまんこに、精子を注ぎ込んで――

……っ！？ 嘘っ…誰か来たみたいですっ。
ひ、ひとまず、ロッカーに隠れましょうっ…！

っ…なんとか、間に合いましたね。

ここに隠れていれば、見つかることはないはず。
狭いですが、我慢してくださいね…。

……だ、だって、見つかるわけにはいかないでしょう？
淫紋をこんなに光らせてるところを見られたら…
末代まで笑われてしまいますっ…

あ…教室に入ってきたようですね。

もしかしたら、生徒会でしょうか…
私の説明を怪しんでいたようですし、こっそりついてきたのかも…

とにかく、静かにしていれば大丈夫だと思いますので、
あまり身体を動かさないで——

んっ、んあ、ああ…ち、ちょっと、何をしているのですか…？

……はあ、さすがは私が見込んだオスですね。
こんな状況でも、おちんちん勃起させてしまうだなんて…

あ、あん、んうっ…もう、仕方ありませんね…
私も欲しかったところですし…このまま、こっそりしちゃいましょうか。

んっ、んう…ほら、こうして羽でお互いを包めば…
消音にもなると思いますから…エッチ、しちゃいましょう…♪

んっ…あ、ああっ…あんっ、んんっ…。

ん、ふふっ…さすがは私専属の、栄養射精係…
こんな暗くて狭いのに、一発でおちんちん入れてしまうなんて…
私のおまんこの場所、もう完璧に覚えてしまったみたいですね？

……でしたら、私の感じる場所も全部知っているでしょう？
あまり激しくできないのが残念ですが、しっかり楽しませてくださいね…？

はあ、はあ…ああ、とってもいいですっ。
ぬちゅっぬちゅって、勃起おちんちん擦れてっ…
おまんこ、気持ちいいっ…んっ、はあ、はあ…。

それに…なんだか、いつもより大きくなってませんか？

んっ、はぁ、はぁ…もしかして、人に見られそうな方が
興奮するのでしょうか…？

……んっ、ふふふっ。実は、私もなんです。

やっぱり、スリルがあった方が燃えるのは…あ、あぁっ、
サキュバスも人間も一緒なんですね。

あ、あぁっ…んっ……わ、わかっていますって。
このくらいの声なら、あ、んっ、聞こえないので…
たぶん、大丈夫かと思います…それとも、心配なら、
もっと身体を密着させますか？

んっ、はぁ、はぁ…ほら、これだけくっつけば…
声も小さくなりますよね…？ んふふっ。

ん…な、なんだか…ぴったり密着してるからあ…あ、あぁ。
お互いの体温を感じられて、あ、んっ…ドキドキしますね。

あなたも、そうでしょう…？
ここ、すごく狭いから…あぁ、んっ、匂いもこもって…
私のフェロモン、いっぱい感じて…あ、あぁっ、んっ…
興奮、しちゃってるんじゃないですか…？

……んふふっ、ですよねぇ？
あ、匂いが好きなら…もっと嗅いじゃってもいいんですよ？

おっぱいの谷間でも、首筋でも、脇の下でも…嗅がせてあげます。

ほら、鼻を近づけて…？
今回は特別に、汗で蒸れた脇…嗅いでみてください。

んあ、あぁ、んっ……ふふっ、夢中じゃないですか。
性欲も凄くて、匂いフェチで…本当に、とんでもない変態ですね。

そんなに好きなら、いくらでもかいでいいですよ？

でもその代わりい…

また美味しい精子、出してくださいねぇ…？
ま、そんなこと言わなくてもわかってるでしょうけど♪

んっ、あ、あぁっ…なんだか、激しくなってきましたか？

ん、ふふっ…私の匂いで、興奮してるんでしょうか…？
でも、そんなに激しくしたら、音が…

んっ、んんっ…ほ、ほら、やっぱり物音が…

ほら、足音がっ…少し、静かにっ…

ひうっ…！？
んっ、んんっ…なんでまた、激しくっ…
もう少し、優しくしてっ…

あっ、あぁっ…も、もう、ダメですってっ…
こんなに激しくしたらっ、んあ、あぁっ…声、聞かれてっ…
見つかってしまうじゃないですかぁっ…

そんなことになったら、あ、あぁっ…
光ってる淫紋見られてっ、学院中の笑いものにっ…

んくっ、んっ、あぁっ…そんなの、ぜ、絶対に嫌っ…
お、お願いですからあ、人が居なくなるまでゆっくりっ…
んっ、んうううっ…

はあ、はぁっ……ふえっ？
そ、そんなっ、今出したらっ、だ、だめっ…あぁっ、んんっ、
声我慢出来なくなって、んっ、あぁっ…み、見つかったちゃいますっ。
や、あぁっ、あんっ、んうっ…。

……そ、それはっ…もちろん、精子は欲しいですけどっ…
それとこれとは、話がっ…あんっ、んんっ！

……ふえっ？ ち、ちょっと、待って…！
ほ、本当に、今出すんですかっ…？ ひうっ、んっ、あぁっ…
やっ、あぁっ…でも、出されたら、本当に見つかって…んっ、んんっ。

……そ、そんなこと、言われてもっ…

おちんちん、気持ちよすぎてっ…我慢なんて、できるわけっ…

……んっ、んうううっ！？
き、急に何をっ…んれるっ、れるううっ…

……んっ、か、考えましたね…？
確かに、これなら声は抑えられますっ…んっ、んれるう…

で、では…出すまでこのままっ、キスしててくださいね…？

ひぎっ…！？ ひうっ、んっ、んううううううっ…！

あっ、あぁっ…い、イクっ…イクイクううっ…！

ひっ、んっ、んんううっ…！

んっ…あ、あぁっ…はぁ、はぁ…はぁ…。

な、なんとか、声を我慢出来ました…

あれならきっと、聞かれてないはず…

……あ、あぁ。

よかった…あなたのおかげで、見つからずにすみましたね…

んっ、はぁ、はぁ…あ、んっ。

では…もう、誰も居なくなったみたいですし、

一旦、ここから出ましょうか…

……ふう。

見つからなくて、本当によかった…。

これも、あなたの機転のおかげですね。

では、邪魔者もいなくなったことだし…

もう一回、エッチしちゃいましょうか。

……ほら、あなたも満足してないみたいだし…

その、今度はお尻なんていかがでしょう…？

おまんこは先ほどの射精で、パンパンになってますし…

お尻にも注いでいただきたいなぁと思いまして…♪

んっ…ほら、こうすればお尻もよく見えますよね？

机の上でまんぐりがえし…なかなか、興奮するシチュエーションではないですか？

……ふふっ、ですよねぇ？

さぁ…私のキツキツアナルに、あなたのたくましいおちんちん…

ぬぶぬぶうって入れてくださいっ…♪

んおゝっ…！？ おっ、おゝ おゝ おっ…！

お、おちんちん、入ってきて…んおっ、おおっ…

お尻、めりめりいって広げられてっ…気持ちいいゝ いゝ っ…！

んっ、んゝ うっ…はあ、はあっ……え？

だ、だって、今ならいっぱい声出せるでしょう？
それに、あなたなら下品な声を聞かれてもいいと思ってますし…

それに…こういうスケベな声の方が…あなたも好きなんじゃありません？

……んふふっ、そうですねえ？

ほら、もっと近づいて…

いっぱい下品な声聞かせてあげますからぁ…

思いっきり、私のお尻…犯してください♪

んっ、んううっ…！
あ、あぁっ…これ、やっぱり最高ですうっ…！
ふっといおちんちに、お尻の中、んっ、おゝ おっ…！
ずちゅずちゅって、深いとこ突かれてっ…んぐっ、んうっ…
頭、飛んじゃいそうなくらい、気持ちゝ いゝ いいっ…！
んおおっ、おっ、おおおっ…！

も、もっと…もっといっぱい、ケツマンコ突いてっ…
勃起おちんちん、感じさせてくださいいっ…！

んっ、おっ、おおおっ…！
お、おちんちん、ごりごりいって擦れてっ…い、いいですうっ！
おっ、おっ、おおおっ…！ んっ、んくっ、んううっ…！
で、でも、もっと…もっといっぱい、突いて欲しいですうっ…！
お尻、壊れちゃうくらいっ…んおっ、おっ、おおおっ…！
激しいピストン、してくださいいっ…！

……んおっ、おおっ…そ、そんな意地悪、言わないでくださいっ…
普通なら、人間のオスに求めるなんてっ…こんな恥ずかしいこと、
絶対にしたくないですけどっ…お、おおっ。
でも…おちんちん気持ちよすぎてっ、と、止められないんですっ…！

んっ、おっ、おおおっ…！ お、お願いですからぁっ…
おちんちん、ぱんぱんって…全力で、っ、突いてくださいいっ…！

おゝ っ、おゝ っ！？ んっ、おゝ おおおっ…！
き、きたぁっ…！ こ、このまま、奥までずんっずんって、
ピストンしてくださくささいっ…！

んぐっ、んゝっ、んおゝ おおっ…！

こ、これ、しゅごいいっ…！

お尻の中、ぐちゃぐちゃにされるのっ…気持ちよすぎてっ…おっ、んんっ！
も、もう、イキそうですっ…！ んおっ、お、おおっ…！

……は、はいっ！

あなたの勃起おちんちんで、んっ、んんううっ…！

け、ケツアクメ、決めちゃいそうになってるんですっ…！

はあ、はあっ…で、ですからあっ…私のお尻に、絶品精子っ…
また、びゅうううううって注ぎ込んでっ…おっ、んおおっ、
い、イかせてくださいっ…！

……あ、ありがとうございますっ！

もう、い、イクッ…イきますからあっ…

このまま、ケツマンコに、だ、出してくださいっ…！

んゝ おっ…！？ おゝっ、おゝ おおっ…！ い、イグイグッ…！
んおゝっ、おゝ おゝ おゝ おおおおおおおっ…！！

んっ、んおっ…おおっ…んっ、はあ、はあ…

あ、ああ…す、すごいっ…やっぱりアナル射精、最高♪

おちんちん、どくどくうって脈打って…

一瞬、意識も飛びそうになっちゃいました…んっ、ああ…

本当に、あなたの精子は素晴らしいですね…

ほら、淫紋も今まで以上に光って…ああ、んっ、
身体も、悦んでるのがわかりますよね？

んっ、はあ、はあ…

もう、あなたのことは手放しませんから。

これからもずううっと、私のために精子を提供してくださいね…？

…まあ、あなたには拒否権はないんですけど。

それは、わかっていますよね…？

……んふふっ。その言葉、忘れませんよ？

では、その誓いの証に…もう一回、していただけますか？

…あなたなら、いけますよね？

んおっ…お、おおっ…

ふ、ふふっ…い、いいですよお。

このまま、何回も何回も何回も…私に射精してくださいねえ…？